

阪神大震災 20 年

祈りをつなぐ 「復興支援 忘れない」 市民ら 100 人感謝の集いー石巻

「阪神大震災から 20 年に合わせ、東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市で 17 日早朝、犠牲者を追悼し、復興支援に感謝する集いがあった。

会場の中瀬公園には住民やボランティアら約 100 人が訪れた。神戸市の方向に向け、約 500 個のキャンドルで「20 祈 忘れない」とかたどった。

参加者は地震発生時の午前 5 時 46 分に黙とう。短冊に「命をつないでいきます」などとメッセージを書き入れた。

石巻市の仮設住宅で暮らす女性（85）は「東日本大震災では神戸の皆さんにお世話になった。今でも手紙のやり取りを続け、生きる励みになっている」と思いを寄せた。

集いは NPO 法人石巻スポーツ振興サポートセンターが 2012 年から毎年開催。松村善行理事長は「復興に向けて石巻も前に進んでいると神戸に伝えたい」と話した。

鎮魂 灯火に託す 160 本、思い共有一福島

「福島市では市民でつくる「追悼の灯火（ともしび）実行委員会」が、同市のスーパー駐車場で、160 本のキャンドルに灯をともし、犠牲者に鎮魂の祈りをささげた。

市民ら約 50 人が参加。雪が降りしきる中、風邪を遮りながらキャンドルに点火し、「1・17 KOBE」と文字を浮かび上がらせた。阪神大震災があった時刻から 12 時間後の午後 5 時 46 分、黙とうした。

被災地をつなぐ活動をする山形県の団体「キャンドルリンクネットワーク」と連携し、福島第 1 原発事故が起きた被災地として鎮魂した。12 日にはキャンドル 360 個を手作りし、うち 200 戸を神戸市に送った。

実行委員の主婦根本美穂子さん（39）は「同じ被災地として共有できる思いがある。被災地のことを多くの人に忘れないでほしい」と話した。」

東北と神戸と 「痛み分かち合う」 名取の被災者 決意新た一神戸市

「震災を経験したどうしだからこそ、痛みや思いを分かち合いたい。阪神大震災から 20 年を迎えた 17 日、東日本大震災の被災者が神戸市を訪れ、犠牲者を悼んだ。東日本大震災の追悼行事も開かれ、二つの被災地が共鳴。参加した多くの人たちが時空を超え、復興への重いと震災を語る継ぐ決意を新たにした。

神戸市中央区の東遊園地であった「阪神淡路大震災 1・17 のつどい」。午前 5 時 46 分、津波で壊滅的被害を受けた名取市閑上げ地区に住んでいた 10 人も静かに目を閉じた。

「神戸のボランティアは何度も支援に通ってくれた」と語るのは自営業長沼俊幸さん（52）。「震災を経験したから、誰よりも痛みを分かってくれる。思いを共有してもらい、癒されている」と感謝の言葉を重ねた。」（「河北新報」2015 年 1 月 18 日付け）